

## フェリー「しらしま」代替船建造請負工事に係る契約候補者の選定について

隠岐広域連合が建造し、隠岐汽船（株）が運航する隠岐島～七類・境航路（中国第472号）に使用する旅客船兼自動車航送船を設計建造する造船所を選定するため、次のとおり公募型プロポーザルを実施した。

### 1 審査結果

最優秀者 内海造船株式会社

### 2 募集及び選定の経過

(1) 募集の公告	令和6年10月7日
(2) 参加表明書提出期限	令和6年10月31日
(3) 技術提案書提出期限	令和7年1月17日
(4) 一次審査（書類）	令和7年1月27日
(5) 二次審査（プレゼンテーション及びヒアリング）	令和7年2月11日

### 3 応募団体

(1) 内海造船株式会社（広島県尾道市瀬戸田町沢 226-6）

### 4 選定の方法

(1) 選定委員会委員の構成

役職	氏名	団体名等
委員長	齋藤 徳篤	鉄道建設運輸施設整備支援機構 参与
委員	中川 覚敬	海士町 副町長
〃	澤谷 一憲	西ノ島町 副町長
〃	平木 伴佳	知夫村 村長
〃	大庭 孝久	隠岐の島町 副町長
〃	後藤 耕	島根県隠岐支庁 県民局長
〃	佐川 賢一	島根県地域振興部 交通対策課長
〃	澤田 武生	日本造船技術センター 調査役
〃	池田 則文	隠岐汽船株式会社 常務取締役
〃	石橋 潤	隠岐汽船株式会社 海務課長
〃	田下 朱美	隠岐汽船株式会社 海務課主幹
〃	川崎 康久	隠岐広域連合 副広域連合長

(2) 提出書類の確認

応募団体からの提出書類については、公告に定める応募の資格等を満たし、適正に記載されていることを確認した。

(3) 一次審査（書類）

新船建造基本計画書の要求水準を満たしていることを確認した。

(4) 二次審査（プレゼンテーション及びヒアリング）

応募団体に対し、提案内容等について40分間の説明を求め、その後、各委員との間で40分間の質疑応答を行った。

(5) 審査内容

提案内容の審査については、応募団体の提案書等書類及びヒアリングの内容を基に、選定委員会において、以下の評価項目ごとに評価を行い、選定基準（61点）以上で最も評価の高い団体の選定を行った。

区分	評価項目	配点
建造船価	船価の妥当性	20
船舶性能	輸送能力、基本性能、運動性能、荷役性能等	20
安全・利便性	旅客設備、乗組員設備、運航設備、バリアフリー等	20
保守管理	機器類、環境・防食等	10
船内環境の 快適性	旅客室、特定目的設備、諸設備	25
提案 コンセプト	説明のわかりやすさ、建造に対する意欲、独自提案など	5
総合評価		100

## 5 委員による評価の概要

4-(5)による各委員の点数を平均した得点は以下のとおり。

順位	団体名	総合評価点
1位	内海造船株式会社	76.2点

## 6 審査の総評

プロポーザルの中で、最優秀者として選定された内海造船株式会社は、国内外において多くの旅客船の建造実績を有しており、また鉄道・運輸機構との船舶共有建造の実績も多数あり、技術的に信頼できる造船所であるといえる。

今回の提案については、厳しくなった安全基準に適合させる必要があったため、現行フェリーに比較して船幅が広くなり、排水量が増加することで、燃料消費量が増加することとなっているが、ヒアリングにおいて水槽試験等で最適な船型を開発する意向が確認されたため、燃料消費量の増加は最小限に抑えられるものと考えられる。

運航設備については、現行フェリーに比較して能力アップが図られており、乗り心地の改善や、出入港時の作業に対して配慮が図られていると評価する。

一方で、旅客設備については、配置が現行フェリーを踏襲した内容となっており、近年の需要に即しているとは言い難いこと、また、旅客の脱出経路及びバリアフリー設備の配置についても、規則を満たしているものの再考の余地があると評価する。

今後、詳細設計のプロセスにおいては、安全に運航でき利用環境の快適性に優れた旅客船とするため、関係者にはこれらの点を配慮の上、綿密に打ち合わせを行うことが必要と思慮する。

最後に、今回の公開プレゼンテーション及びヒアリングを含むプロポーザルが、隠岐航路にふさわしい旅客船の建造に繋がることを期待し、総評とする。